

2-2

学習到達度調査結果と「学びの基礎力」「生きる力」の自己評価の現状

ベネッセ教育総研 小林 洋

はじめに

前回の「学力向上のための基本調査 2003」において、「総合学力研究会」では、「確かな学力」を「教科学力」「生きる力」およびそれらのベースとなる「学びの基礎力」の3つの観点から総合的に捉え、3つの力が相互に関連し合ってより強固な力を形成するという学力モデル（総合学力モデル）を提唱した。このモデルに基づいて、3つの力の相互関係を詳細に調べ、互いに正の相関関係があるという基本仮説を検証し、詳しい分析結果を実践事例とともに報告書『豊かな学力の確かな育成に向けて』にまとめて世に問うた。今回の調査では、前回調査の基本仮説を再検証するとともに、教師の指導力、家庭の教育力ならびに学校の経営力と子どもの総合的な学力形成との関わりを調べることに主眼を置いたものである。結論から述べるならば、前回の調査で調べた3つの力それぞ

れの傾向と相互関係は今回の調査でも改めて確認することができた。この詳細については、ここでは繰り返さない。3つの力のそれぞれの状況と相互関係に関する詳細内容については、前掲報告書を参照していただきたい（または、ベネッセ教育総研オンライン (<http://www.view21.jp/>) でも、具体的な設問の回答状況とともに分析概要が参照できるようになっている）。

本節では、学習到達度調査、ならびに「学びの基礎力」「生きる力」の自己評価結果の概要を踏まえ、「学びの基礎力」「生きる力」と教科学力との関係を確認し、後章での教師の指導力、家庭の教育力、ならびに学校の経営力と子どもの総合学力との関係を調べる際の前提材料を提供しておきたい。

1 「教科学力」(学習到達度)の調査結果概要

図表 2-2-1 は、学習到達度調査(教科学力調査)の結果を学年別、観点別に一覧にしたものである。教科学力調査の設計にあたっては、前回同様に、基礎と応用・発展のレベル、知識・理解、技能・表現、思考・判断、関心・意欲・態度の学力観点、および学習領域について、それぞれバランスよく測定できる問題を作成し、学力プロフィールを多面的に把握できるように配慮した。設問の解答が正答または準正答であった場合、その設問を「通過」とし、通過した子どもの割合をその学年集団についての平均通過率としている。全体の平均通過率は、6～8割程度の間となっているが、算数/数学では小学6年、中学3年ともに「数学的な見方や考え方」の観点(今回の調査では「応用」と一致)で4割程度の低い通過率になっている。

図表 2-2-1

学習到達度調査の結果(平均通過率)一覧

| 教科 | | 学年 | | | |
|-------------|-----------------|------------|------|------|------|
| | | 小学4年 | 小学6年 | 中学3年 | |
| 国 | 教科全体 | 77.1 | 80.1 | 72.7 | |
| | 基礎 | 81.4 | 78.8 | 75.9 | |
| | 応用 | 65.1 | 83.9 | 65.9 | |
| | 語 | 観点別 | 73.0 | 85.0 | 84.1 |
| | | 話す力・聞く力 | 72.9 | 71.7 | 67.8 |
| 書く力 | | 75.6 | 85.4 | 78.2 | |
| 読む力 | | 85.4 | 77.1 | 67.3 | |
| | 言語に関する知識・理解・技能 | | | | |
| 算数/数学 | 教科全体 | 74.2 | 64.4 | 64.7 | |
| | 基礎 | 76.6 | 70.5 | 73.5 | |
| | 応用 | 68.3 | 40.0 | 36.7 | |
| | 語 | 観点別 | 68.3 | 40.0 | 36.7 |
| | | 数学的な見方や考え方 | 77.6 | 61.4 | 58.2 |
| 数学的な表現・処理 | | 65.7 | 69.9 | 76.2 | |
| 数量、図形の知識・理解 | | | | | |
| 英 | 教科全体 | | | 71.5 | |
| | 基礎 | | | 81.2 | |
| | 応用 | | | 55.3 | |
| | 語 | 観点別 | | | 75.5 |
| | | 理解力 | | | 63.2 |
| 表現力 | | | | 67.5 | |
| | 言語や文化についての知識・理解 | | | | |

2 「学びの基礎力」「生きる力」の自己評価の全体傾向

小学高学年から中学にかけての低下傾向をどう克服するかが学力向上の大きな課題

図表 2-2-2 は、「学びの基礎力」ならびに「生きる力」のそれぞれ4つの領域別の子どもの自己評価のスコア（領域別に子どもの回答を0～100の間になるように得点化したもの）の一覧とそれをレーダーチャートに表したものである。図表 2-2-3 は、とくに「学びの基礎力」についてカテゴリーレベルでの同様なスコアを示したものである。

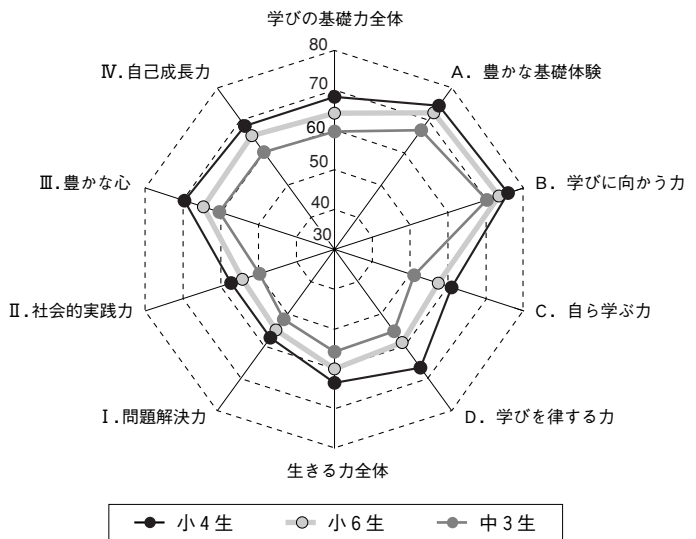
図表 2-2-2 で、「学びの基礎力」について見ると、3学年ともに、「学びに向かう力」のスコアが最も高く、「自ら学ぶ力」のスコアが最も低いという共通した傾向が読み取れる。また、どの領域においても学年が上がるにつれて子どもの自己評価のスコアは低下する傾向が認められる。この低下傾向は、「学びを律する力」の領域で最も大きく、小学4年生と中学3年生の間に11ポイント強の差が生じている。「生きる力」について見ると、同様に、学年が上がるにつれてスコアは低下する傾向を示し、全体で小学4年生と中学3年生で8ポイント程度の低下が見ら

れる。

「学びの基礎力」「生きる力」の自己評価が、学年が上がるにつれて低下する現象の背景の一つには、学年とともに自己評価基準（自分に対する要求水準）が上がるによることが考えられる。しかし、「自ら学ぶ力」の領域の「学習計画力」（「自分で勉強の計画を立てている」など）や「自宅学習習慣」（「宿題はきちんとやっている」など）、また「学びを律する力」の領域での「学習継続力」（「ふだんからコツコツ学習している」など）、「学習のけじめ」（「勉強するときは集中している」など）のカテゴリー別スコアの著しい低下は、学習行動面での一種の「後退」を実際に示していると考えられる。このような現象は、図表には示していないが「生きる力」の「自己成長力」の領域での「将来かなえてみたい夢がある」「どんな仕事自分が合っているのかわっている」などのスコアの低下（それぞれ、4件法のトップボックスで、75%→68%→52%、26%→22%→14%）が示すような

図表 2-2-2 「学びの基礎力」「生きる力」のプロフィール（領域別スコア）

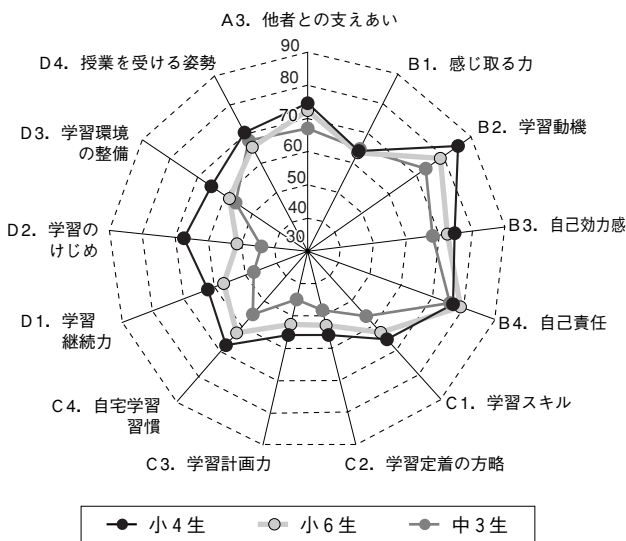
| 学びの基礎力・生きる力の領域 | | 小学4年 | 小学6年 | 中学3年 |
|----------------|------------|------|------|------|
| 学びの基礎力 | 学びの基礎力全体 | 68.3 | 64.2 | 59.6 |
| | A. 豊かな基礎体験 | 74.6 | 72.4 | 67.0 |
| | B. 学びに向かう力 | 75.8 | 73.4 | 70.2 |
| | C. 自ら学ぶ力 | 60.9 | 57.4 | 51.0 |
| | D. 学びを律する力 | 66.7 | 58.9 | 55.4 |
| 生きる力 | 生きる力全体 | 63.5 | 60.0 | 55.7 |
| | I. 問題解決力 | 57.4 | 55.0 | 51.7 |
| | II. 社会的実践力 | 57.3 | 54.3 | 49.8 |
| | III. 豊かな心 | 69.6 | 64.6 | 60.4 |
| IV. 自己成長力 | 68.3 | 65.3 | 60.2 | |



「学びの基礎力」「生きる力」各4領域の複数の設問の回答合計を、それぞれ0から100の間になるように得点化して一覧とグラフに表した。設問項目の一部は、本節図表 2-2-4 ならびに図表 2-2-5 参照。（設問内容の詳細については、前回調査「学力向上のための基本調査 2003」の報告書「豊かな学力の確かな育成に向けて」（2003年、ベネッセ教育総研刊）または、ベネッセ教育総研オンライン参照）。

図表 2-2-3 「学びの基礎力」の 카테고리別スコア

| 学びの基礎力の 카테고리 | | 小学4年 | 小学6年 | 中学3年 |
|--------------|--------------|------|------|------|
| 豊かな基礎体験 | A3. 他者との支えあい | 74.6 | 72.4 | 67.0 |
| | B1. 感じ取る力 | 63.9 | 63.3 | 64.6 |
| 学びに向かう力 | B2. 学習動機 | 85.3 | 78.8 | 73.4 |
| | B3. 自己効力感 | 74.6 | 72.4 | 67.9 |
| | B4. 自己責任 | 76.6 | 79.0 | 75.6 |
| | C1. 学習スキル | 65.7 | 62.9 | 56.3 |
| 自ら学ぶ力 | C2. 学習定着の方略 | 56.0 | 53.0 | 48.3 |
| | C3. 学習計画力 | 55.9 | 52.6 | 44.9 |
| | C4. 自宅学習習慣 | 67.5 | 62.6 | 55.2 |
| | D1. 学習継続力 | 62.2 | 57.1 | 47.4 |
| 学びを律する力 | D2. 学習のけじめ | 67.5 | 51.4 | 44.0 |
| | D3. 学習環境の整備 | 65.0 | 58.4 | 56.2 |
| | D4. 授業を受ける姿勢 | 70.5 | 65.5 | 67.8 |
| | A3. 他者との支えあい | 74.6 | 72.4 | 67.0 |



「学びの基礎力」4領域の下位の 카테고리レベルについて、複数の回答を0から100の間になるように得点化したもの。「豊かな基礎体験」の領域のうち、A1直接体験、A2メディア体験、A4基本的な生活習慣は、調査票のボリュームの制約から今回の調査では省略している。(設問内容の詳細については、前掲報告書またはオンラインサイト参照)

思春期にある子どもたちが遭遇しやすい将来への夢や目標の喪失(=社会や大人への疑問、そして‘夢’と‘現実’とのギャップ、社会と自己の間の自我同一性をめぐる葛藤)と相まって生じていると考えられる。小学校高学年から中学校にかけての子どもたちのこの‘後退’をどう克服していくかは、学校現場と家庭にとって学力向上を実現していく上での大きな

課題であることを改めて認識しておきたいと思う(この課題への実践の一つの方向については、筆者の「子どもの『将来への夢』を育む学習」(『21世紀型学力を育む総合的な学習を創る』2002年、ベネッセ文教総研刊)を参照していただきたい(前掲オンラインサイトで全文参照可))。

3 教科学力、学びの基礎力、生きる力の相互関係

1 「学びの基礎力」が高い子どもほど教科学力が高い

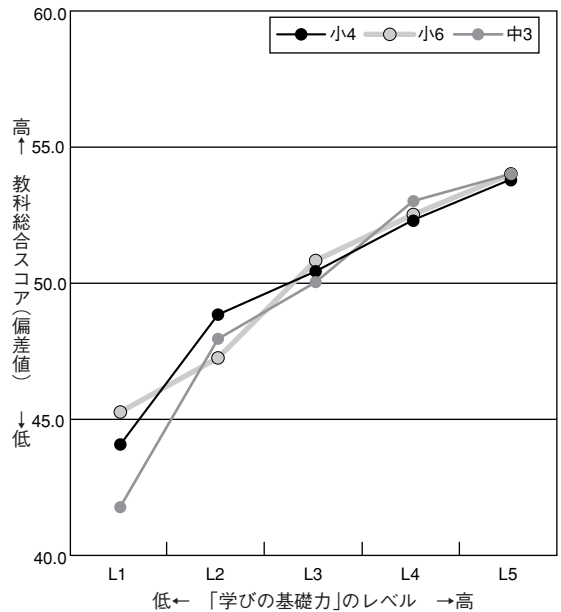
図表 2-2-4 ならびに図表 2-2-5 は、それぞれ、「学びの基礎力」と教科学力との関係、「生きる力」と教科学力との関係を示すものである。

図表 2-2-4 の表中の設問項目は、「学びの基礎力」の4領域に関わる設問のうち、教科学力(教科研総合スコア(偏差値換算))との間の相関が顕著な項目を抽出したものである。各項目で「とてもあては

まる」「まああてはまる」と回答したものを「肯定群」、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と回答したものを否定群として分類し、両群の教科研総合スコアを比較している。この表中に現れている両群の間の差は、すべて統計的に有意(1%水準)なものとなっている。この表で、両群で5ポイント(偏差値で)以上の差が生じているものを見ると、す

図表 2-2-4 「学びの基礎力」と教科学力との関係

| 設問項目 | | 群 | 小4生 | 小6生 | 中3生 |
|--------------------------|---|------|------|------|------|
| 豊かな基礎体験 | 自分の考えや気持ちを理解してくれる友だちがいる。 | 肯定 | 50.4 | 50.4 | 50.2 |
| | | 否定 | 47.5 | 48.2 | 48.5 |
| | 家族は自分のことを気にかけてくれていると思う。 | 肯定 | 50.6 | 50.4 | 50.3 |
| | | 否定 | 45.3 | 47.9 | 48.1 |
| | 学校の先生は、自分のことを認めてくれていると思う。 | 肯定 | 50.5 | 50.8 | 51.2 |
| | | 否定 | 48.6 | 48.4 | 47.8 |
| 学びに向かう力 | 勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがよくある。 | 肯定 | 50.8 | 50.9 | 50.9 |
| | | 否定 | 46.5 | 47.7 | 47.5 |
| | 勉強して身につけた知識は、いずれ仕事や生活の中で役に立つと思う。 | 肯定 | 50.5 | 50.9 | 50.3 |
| | | 否定 | 44.1 | 46.0 | 49.2 |
| | 努力をすれば、自分もたいていのことはできると思う。 | 肯定 | 50.5 | 50.4 | 50.1 |
| | | 否定 | 44.9 | 47.1 | 48.9 |
| 同じまちがいをくり返さないように気をつけている。 | 肯定 | 50.7 | 50.7 | 50.7 | |
| | 否定 | 45.3 | 46.0 | 47.2 | |
| 自ら学ぶ力 | 授業で習ったことはそのまま覚えるのではなく、その理由や考え方もいっしょに理解しようとしている。 | 肯定 | 50.9 | 52.3 | 52.8 |
| | | 否定 | 48.7 | 47.5 | 46.3 |
| | 自分で勉強の計画を立てている。 | 肯定 | 50.8 | 51.5 | 51.8 |
| | | 否定 | 49.1 | 48.9 | 49.0 |
| | 宿題はきちんとやっている。 | 肯定 | 50.7 | 50.9 | 51.2 |
| | | 否定 | 43.6 | 45.2 | 44.6 |
| 学びを律する力 | わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している。 | 肯定 | 50.9 | 51.4 | 52.3 |
| | | 否定 | 48.0 | 47.8 | 46.9 |
| | かんちがいや思いこみがないか、しっかり見直しをしている。 | 肯定 | 50.8 | 51.1 | 51.1 |
| | | 否定 | 48.3 | 48.9 | 49.1 |
| | 必要なものをきちんとそろえてから、勉強を始めている。 | 肯定 | 50.7 | 50.7 | 50.5 |
| | | 否定 | 47.0 | 48.1 | 48.2 |
| 熱心に授業を受けている。 | 肯定 | 51.0 | 51.5 | 51.1 | |
| | 否定 | 46.8 | 47.0 | 45.9 | |



「学びの基礎力」のレベルは、左の表にある設問の回答合計に基づき、上位から7%、24%、38%、24%、7%の割合に準ずる形でL5からL1の5段階を設定している。次ページの「生きる力」についても同様。

「学びの基礎力」の各設問の肯定群（「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答した子ども）と否定群（「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と回答した子ども）との間の教科総合（国語＋算数／数学（＋英語（中3）））偏差値の違いを示す。両群の差は、すべて1%水準で統計的に有意となっている。右のグラフは、表中の設問の回答合計を5段階のレベルに分け、このレベルと教科総合スコアとの関係を見たもの。

すべての学年で共通しているのが「宿題はきちんとやっている」という項目である。小学4年生で7.1、小学6年生で5.7、中学3年生で6.6ポイントの差となっている。小学4年生では、他に、「勉強して身につけた知識は、いずれ仕事や生活の中で役に立つ」「努力をすれば、自分もたいていのことはできると思う」などの4項目、中学3年生では「授業で習ったことはそのまま覚えるのではなく、その理由や考え方もいっしょに理解しようとしている」「わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している」「熱心

に授業を受けている」の3項目で両群の差が5ポイント以上となっている。小学6年生については、「宿題」の他には5ポイント以上の差があるものはないが、「勉強して身につけた知識の役立ち感」や「授業で習ったことはその理由や考え方も重視」の項目などで5ポイント近い差を示している。

図表2-2-4の右側のグラフは、子ども一人ひとりについての表中の設問の回答合計を5つの段階にレベル分けし、そのレベルと教科総合スコアとの関係を示したものである。表中に現れている各設問

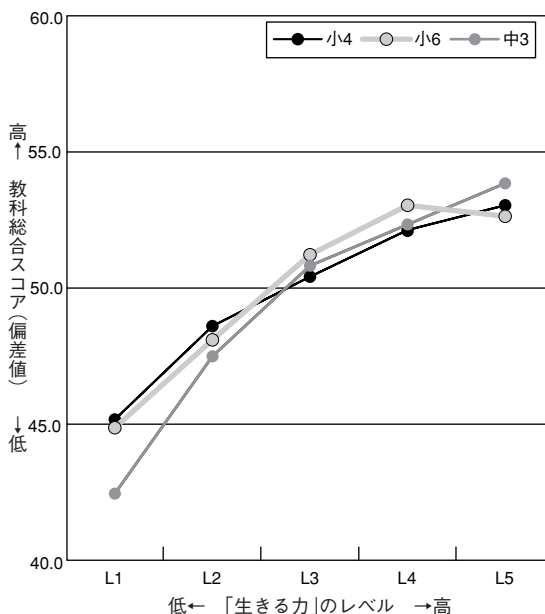
の教科総合スコアへの寄与が累積的に積み上がっていることが読み取れる。

また、中学3年生でL1とL5の格差が最も大きくなる傾向が現れていることに注目したい。

2 「生きる力」が高い子どもほど教科学力が高い

図表 2-2-5 「生きる力」と教科学力との関係

| 設問項目 | | 群 | 小4生 | 小6生 | 中3生 |
|---------------------------------------|--------------------------------------|------|------|------|------|
| 問題解決力 | 調べてわかったことをもとに、考えをまとめることができる。 | 肯定 | 50.8 | 51.5 | 51.9 |
| | | 否定 | 47.9 | 47.1 | 46.7 |
| | 筋道を立てて、ものごとを考えることができる。 | 肯定 | 51.2 | 51.8 | 52.0 |
| | | 否定 | 47.7 | 47.5 | 47.2 |
| | 自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる。 | 肯定 | 51.4 | 51.9 | 51.5 |
| | | 否定 | 47.9 | 48.1 | 48.6 |
| 調べたことを、コンピュータを使ってまとめたり、発表したりすることができる。 | 肯定 | 50.8 | 51.7 | 52.5 | |
| | 否定 | 48.9 | 48.1 | 47.5 | |
| 社会的実践力 | もめごとが起こったときには、間に立ってまとめ役になることができる。 | 肯定 | 50.7 | 51.1 | 51.6 |
| | | 否定 | 49.3 | 49.4 | 48.9 |
| | テレビのニュースや新聞などで、最近の社会のできごとをよく知っている。 | 肯定 | 50.8 | 51.5 | 50.5 |
| | | 否定 | 48.6 | 47.9 | 49.1 |
| | 社会で問題になっていることについて、どうすればよいかを考えたことがある。 | 肯定 | 50.8 | 51.0 | 51.3 |
| | | 否定 | 49.1 | 49.2 | 48.7 |
| 学校や社会のルールを守り、マナーを大切にしている。 | 肯定 | 50.7 | 50.8 | 50.9 | |
| | 否定 | 47.4 | 48.6 | 47.1 | |
| 豊かな心 | 自分がやらなければならないことは、責任を持ってやりぬくことができる。 | 肯定 | 51.0 | 50.8 | 51.0 |
| | | 否定 | 46.7 | 48.0 | 46.6 |
| | むずかしいことでも、失敗をおそれないで、取り組んでいる。 | 肯定 | 50.8 | 50.8 | 50.3 |
| | | 否定 | 48.1 | 49.0 | 49.6 |
| | 家族を尊敬し、大切にしている。 | 肯定 | 50.3 | 50.4 | 50.1 |
| | | 否定 | 46.9 | 48.2 | 49.4 |
| 自分と違う意見も尊重している。 | 肯定 | 50.7 | 51.8 | 51.4 | |
| | 否定 | 47.6 | 47.5 | 46.7 | |
| 自己成長力 | 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う。 | 肯定 | 50.3 | 50.4 | 50.3 |
| | | 否定 | 46.6 | 47.1 | 44.7 |
| | 自分はまわりの人から認められていると思う。 | 肯定 | 50.9 | 51.6 | 51.3 |
| | | 否定 | 48.8 | 48.4 | 48.6 |



*図表 2-2-4 の注釈参照

図表 2-2-5 は、同様に「生きる力」について見たものである。「学びの基礎力」と同様に、「生きる力」の各項目の肯定群と否定群の間に全般に統計的に有意な差が生じている。ただ、両群の間で5ポイント以上の差が生じている項目があるのは「学びの基礎力」の場合と異なり中学3年生のみで、この学年では、「自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う」

(5.6)、「調べてわかったことをもとに、考えをまとめることができる」(5.2)、「調べたことを、コンピュータを使ってまとめたり発表したりすることができる」(5.0)の各項目が該当している。小学生について両群の差が最も開いているのは、小学4年生で「自分がやらなければならないことは責任を持ってやりぬくことができる」(4.3)、小学6年生で「調べてわか

ったことをもとに、考えをまとめることができる」(4.4)となっている。

図表2-2-5の右側のグラフを見ると、「学びの基礎力」と同様に、表中の各項目の教科学力への寄与が積み上がっていることがうかがわれる。また、やはり中学3年生でL1とL5の違いが最も大きくなっている。中学3年生では、「学びの基礎力」と同様に「生きる力」の自己評価と教科学力との相関関係がより強くなっていることがわかる。

「学びの基礎力」や「生きる力」の各領域のレベルと

「教科学力」との関係も、前回同様な傾向が得られているがここでは省略する(前掲報告書『豊かな学力の確かな育成に向けて』第3章、または前掲オンラインサイト参照)。このような相関関係は、直ちに因果関係を示しているものではないが、「総合学力研究会」では、これらの3つの力をバランスよく「総合学力」として育成することの大切さを示唆するデータだと考えている。

最後に、「学びの基礎力」「生きる力」について見た教科学力上位層の特徴をまとめておこう。

◆ 「学びの基礎力」「生きる力」について見た教科学力上位層の特徴的プロフィール

「学びの基礎力」について

| | |
|---------|--|
| 豊かな基礎体験 | ① 家族や友人、教師との良好な信頼関係ができています。 |
| 学びに向かう力 | ② 知的好奇心や感性が豊かで、学習の楽しさやおもしろさを感じている。 ③ 学習の役立ちや大切さを積極的に認めている。 |
| 自ら学ぶ力 | ④ 物事をやり遂げた経験や喜びを味わっている。 ⑤ 繰り返しだけでなく、関連させて覚えるという方略も取り入れている。 ⑥ 学習の計画やめあてを持って取り組んでいる。 |
| 学びを律する力 | ⑦ 家庭での学習時間を確保し、宿題をきちんとやっている。 ⑧ わからない事はそのままにせず、わかるまで努力している。 ⑨ 学校の授業を大切にしている。 |

「生きる力」について

| | |
|--------|---|
| 問題解決力 | ① 筋道を立てて物事を考え、自分なりの意見を持っている。 ② 調べたことや考えたことを適切な手段で表現している。 |
| 社会的実践力 | ③ 社会に対する関心が高く、自分なりの貢献の在り方を考えている。 |
| 豊かな心 | ④ 自分に与えられた課題は、きちんと責任を持ってやり遂げている。 ⑤ 難しいことにも失敗を恐れず挑戦する積極性を持っている。 ⑥ 自分と異なる意見も尊重し、協調しながら物事に取り組んでいる。 |
| 自己成長力 | ⑦ 自分の力を伸ばしたいという意志と目標を持っている。 |

* 今回の調査項目には含まれていないが、前回の調査から「学びの基礎力」については「新聞やインターネット、書籍といった様々なメディアに親しんでいる」「朝食の摂食を含め、良好な生活習慣が身に付いている」なども上記に加えることができる。